

消費者動向調査 No.118

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

◆ 調査時期 平成 28 年 4 月

◆ 調査対象 福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人
(うち回答者 482 人、回答率 96.4%)

◆ 回答者区分

A.年代

	%
20代	4.6
30代	20.5
40代	39.8
50代	27.0
60代	8.1

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	45.7
妻だけ	9.4
両方	44.9

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

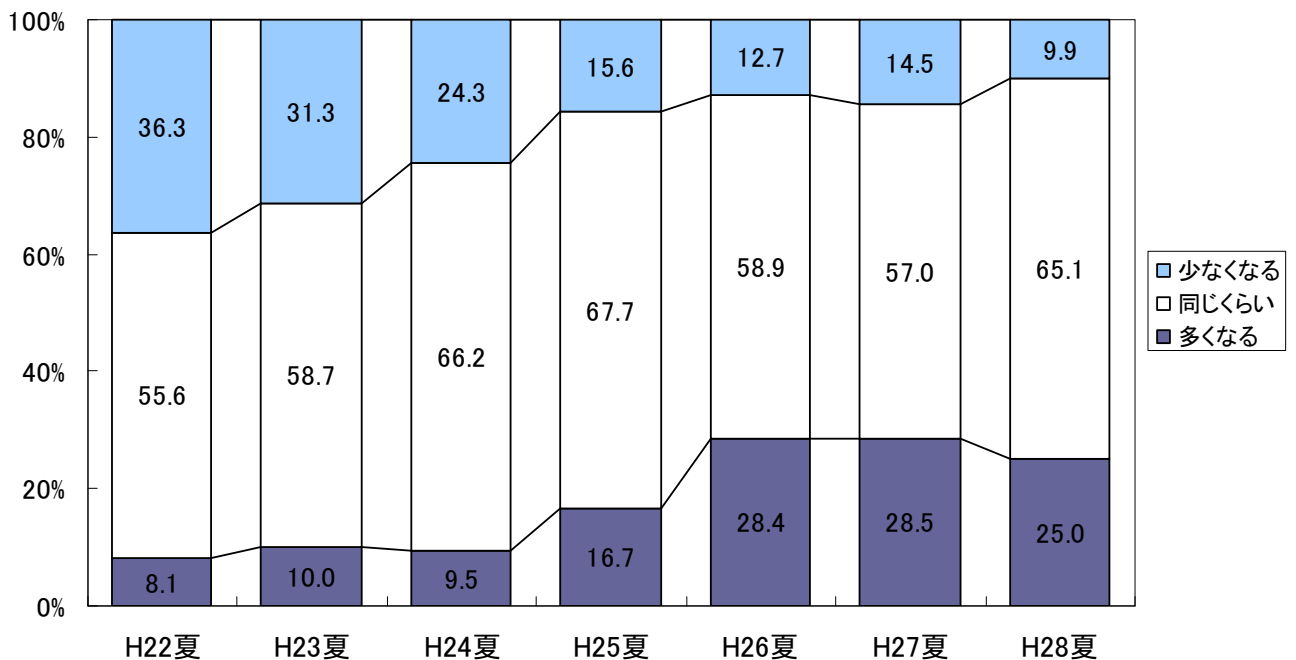
内閣府は5月の月例経済報告で、「景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。」と発表しています。先行きについては、「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。こうしたなかで、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。また、平成28年（2016年）熊本地震の経済に与える影響に充分留意する必要がある。」としています。

このような中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

◆ 今年の夏のボーナス、前年夏と比較して「多くなる」は3.5ポイント減少。

夏のボーナスが前年夏より「多くなる」と予測する割合は3.5ポイント減少し25.0%となった。「少なくなる」は4.6ポイント減少し9.9%、「同じくらい」は8.1ポイント増加し65.1%であった。

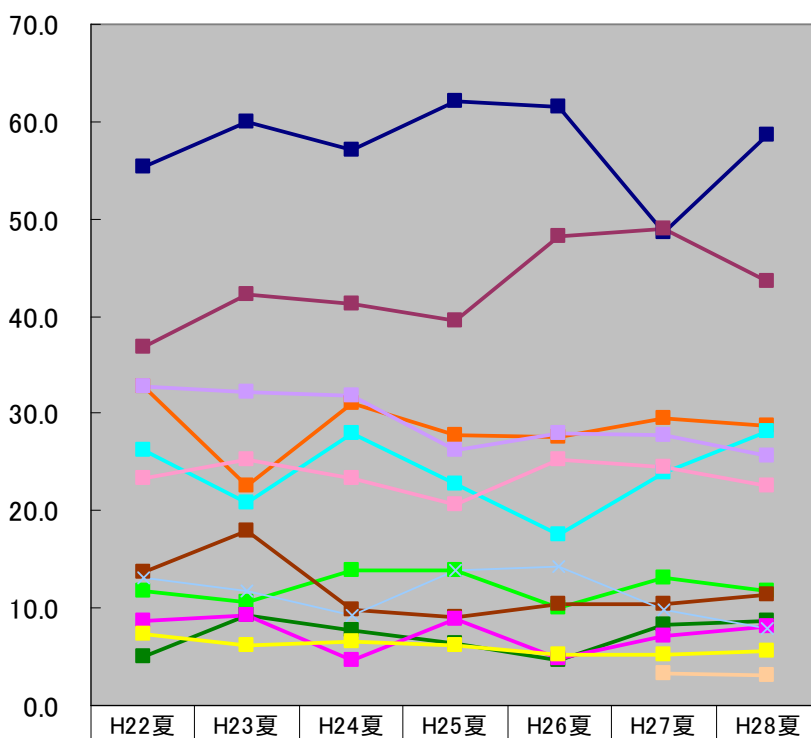
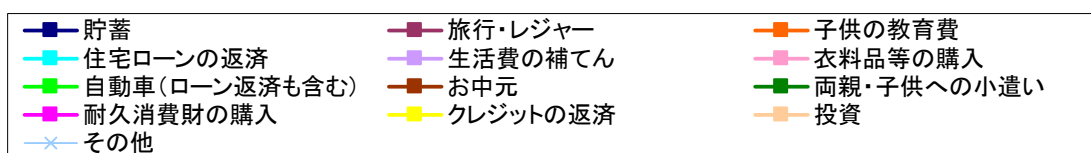
[グラフ1：夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]（単位：%）



◆夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で58.7%。2位は「旅行・レジャー」で43.6%。

夏のボーナスの使いみち予定1位は「貯蓄」で58.7%。これは前年夏の48.6%より10.1ポイント増加した。2位は「旅行・レジャー」で5.4ポイント減少して43.6%。3位は「子供の教育費」で28.8%となった。

[グラフ2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] (単位：%)

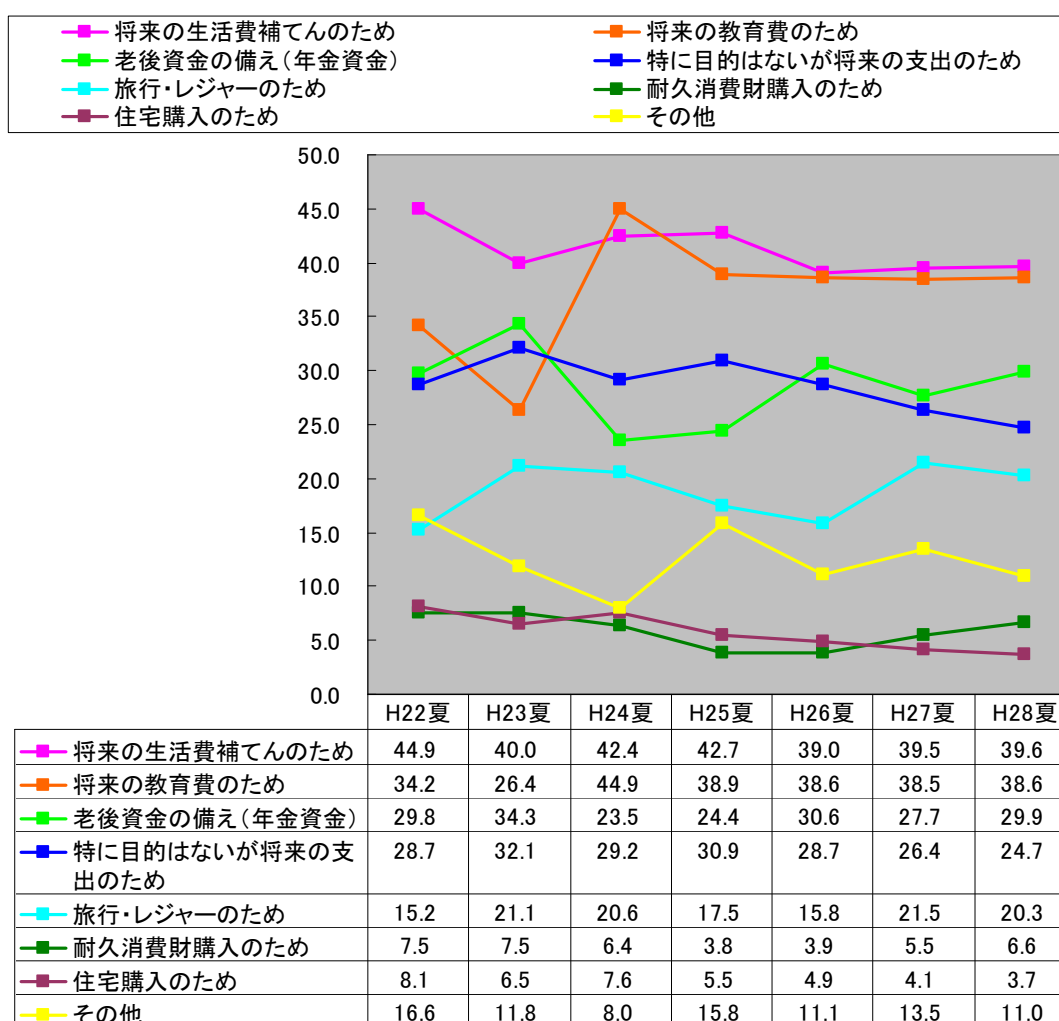


	H22夏	H23夏	H24夏	H25夏	H26夏	H27夏	H28夏
■ 貯蓄	55.3	60.0	57.0	62.1	61.6	48.6	58.7
■ 旅行・レジャー	36.8	42.2	41.2	39.6	48.3	49.0	43.6
■ 子供の教育費	32.8	22.5	31.1	27.8	27.5	29.5	28.8
■ 住宅ローンの返済	26.3	20.9	28.0	22.7	17.5	24.0	28.2
■ 生活費の補てん	32.8	32.3	31.9	26.3	27.9	27.7	25.7
■ 衣料品等の購入	23.3	25.2	23.3	20.6	25.3	24.4	22.6
■ 自動車(ローン返済も含む)	11.7	10.6	13.8	13.9	10.1	13.1	11.8
■ お中元	13.6	17.9	9.9	9.1	10.5	10.5	11.4
■ 両親・子供への小遣い	5.1	9.3	7.8	6.3	4.7	8.2	8.7
■ 耐久消費財の購入	8.7	9.3	4.7	8.8	4.9	7.2	8.1
■ クレジットの返済	7.3	6.1	6.6	6.1	5.3	5.3	5.6
■ 投資						3.3	3.1
■ その他	13.2	11.8	9.3	13.9	14.2	9.8	7.9

◆ボーナスを貯蓄・運用する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で39.6%。2位は「将来の教育費のため」で38.6%。

夏のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」で前年夏に比べ0.1ポイント増加し、39.6%。2位は「将来の教育費のため」で0.1ポイント増加し38.6%であった。引き続き将来への備えが上位を占めた。

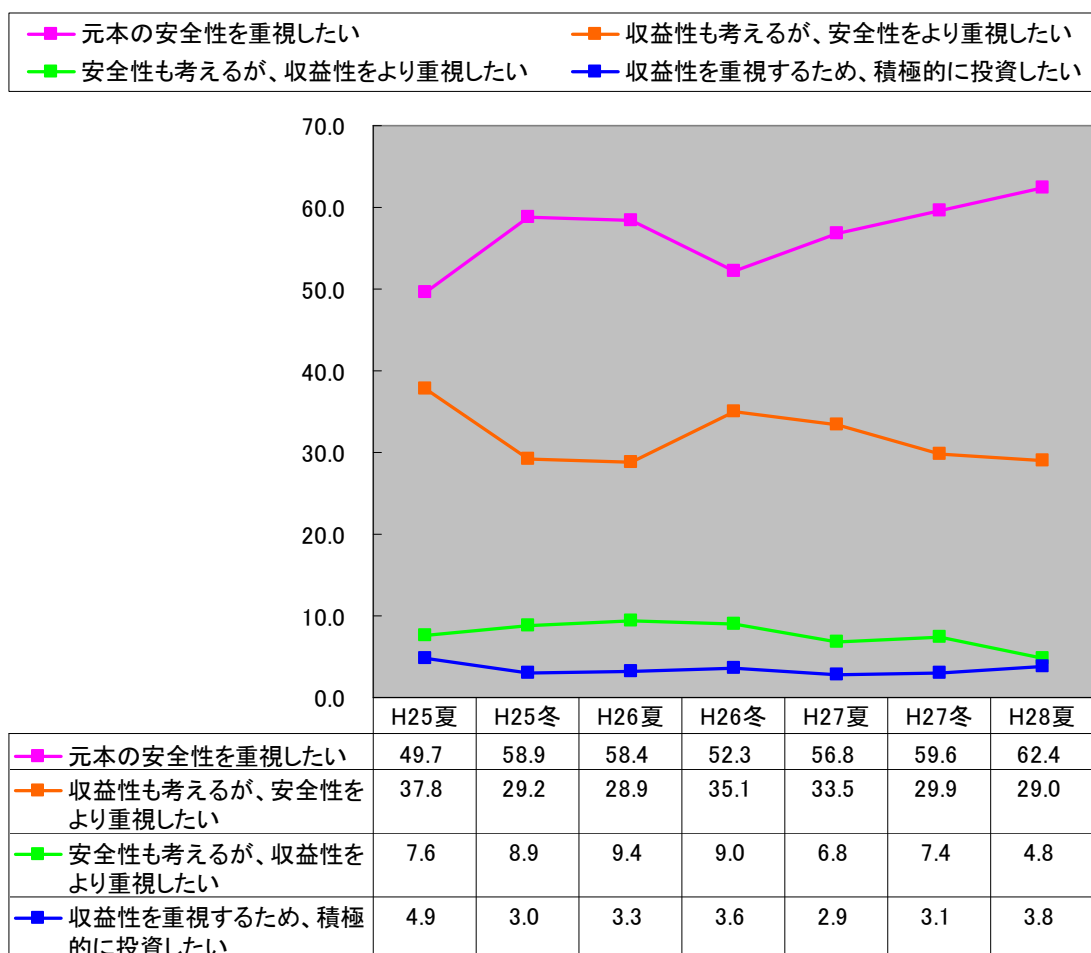
[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄・運用しますか（2つまで）]
(単位：%)



◆夏のボーナスを貯蓄・運用する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が62.4%で1位。

「元本の安全性を重視したい」が前年の冬から2.8ポイント増加の62.4%で12期連続1位。
 「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が前年の冬から0.9ポイント減少して29.0%。
 景気は緩やかな回復基調にあるものの、安全性を重視する割合が引き続き高水準である。

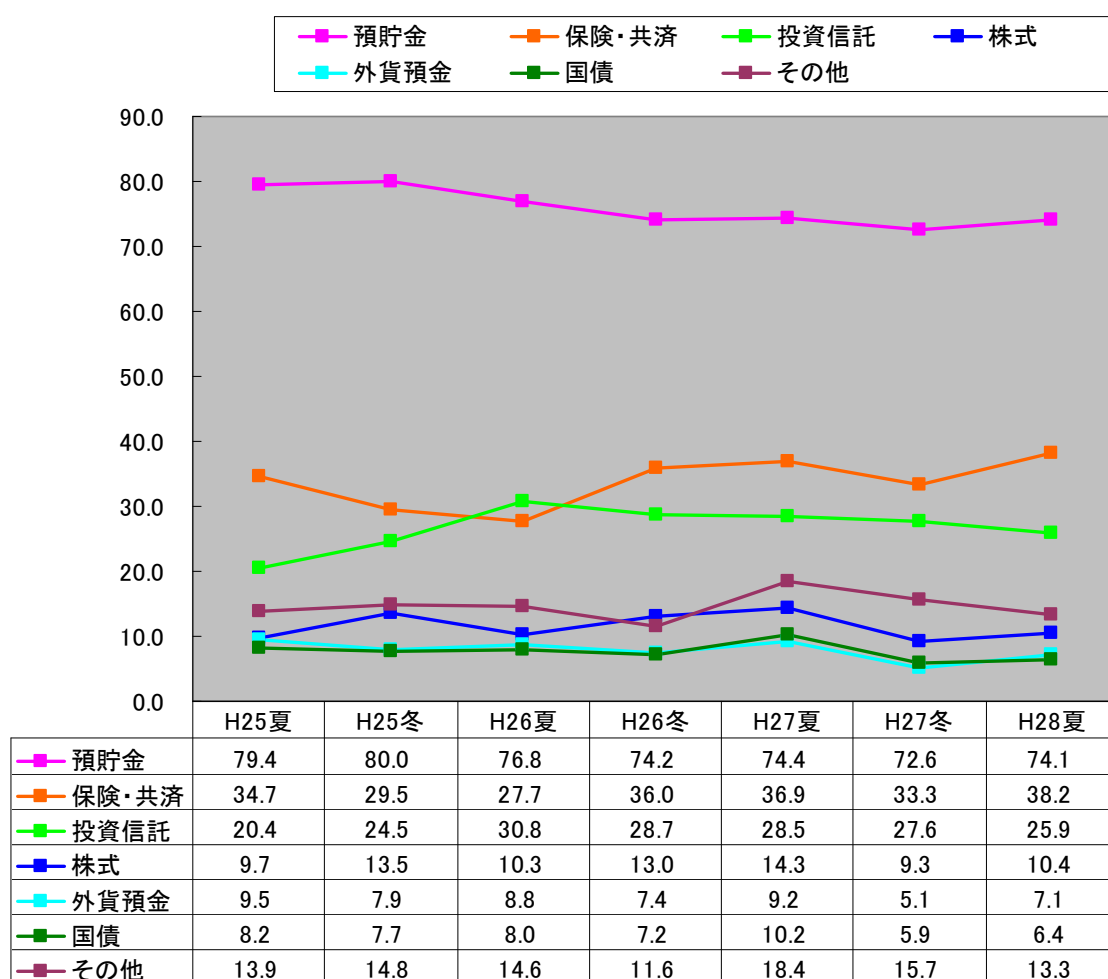
[グラフ4：夏のボーナスを貯蓄・運用する場合、あなたの考えに近いのは]
 (単位：%)



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で前年の冬より 1.5 ポイント増加し 74.1%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 74.1%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 38.2%は過去最高。年初来の株価の下落や円高の進行で、安全資産への関心が増加した。

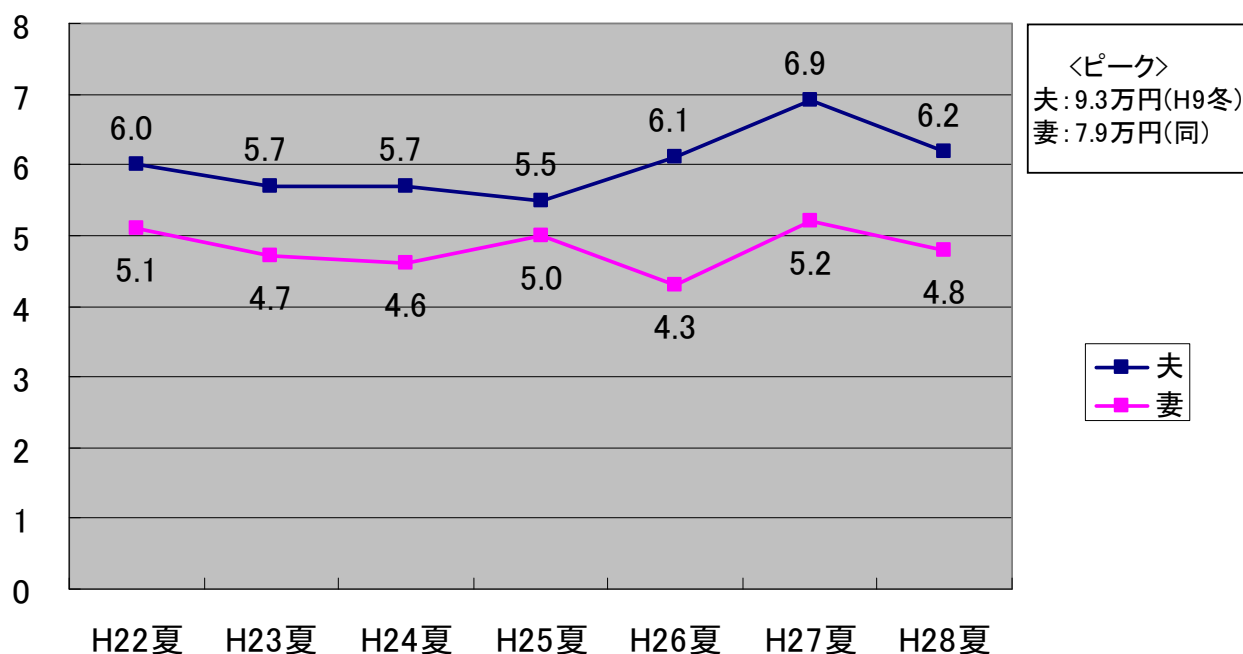
[グラフ 5 : どのような金融商品に関心がありますか (いくつでも)] (単位 : %)



◆夏のボーナス、自由に使える金額は、前年夏に比べて夫は 7 千円ダウン。妻は 4 千円ダウン。

夏のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 6.2 万円（前年夏比 7 千円減）。妻が自由に使える金額は平均 4.8 万円（前年夏比 4 千円減）。景気の先行き不透明感からか、自由に使える金額は前年の夏から夫・妻ともに減少した。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか] (単位 : 万円)



この調査に関するお問い合わせ先は
 西日本シティ銀行 広報文化部 長谷川・本郷 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051